

“親をあずけたい”介護施設

「ありがとう」がチカラになる

高いホスピタリティは利用者へだけでなく従業員にも。

黒字経営・低離職率・納得の報酬等、「三方良し」の介護事業を続ける
「さわやからいふ」の現場の秘密とは。

●同社を率いるのはパートタイムから社長となった元主婦。

介護サービスを手掛ける『さわやからいふ』（名古屋市）が運営する住居型有料老人ホーム『さわやかな家』の見学者のほぼ100%が入所希望します。

利用者からの評価が高く、かつ黒字経営・低い離職率・見合った報酬といった、スタッフの働く「安心」とモチベーションを生み出す「幸せ」をも実現しているのも『さわやからいふ』です。高いホスピタリティを支える源はどこにあり、利用者からの「ありがとう」が循環する介護現場のひみつとは何か。第三者目線でとらえた、ひとつの介護事業所の姿を伝えます。

2018年より同社を率いるのは、パートタイムから社長となった元主婦。

著者はこの稀有なキャリアをもつ社長・出口氏への取材を通じ、その手腕を紐解いていきます。

社長のモットーは「私があなただったら」。常に相手ありきの行動原則をこころがけ実行します。きわめてシンプルなこの姿勢。施設の利用者はもちろん、ともに働くスタッフに対しても変わらないこのスタンスこそが、スタッフのホスピタリティとモチベーション維持につながっていると言えるでしょう。



著者略歴

服部 夏生(はっとり・なつお)

1973年愛知県名古屋市生まれ。

東北大学文学部卒業後、96年より出版社勤務。月刊誌やムック本などの編集長を兼任したのち独立。「編集者&ライター、ときどき作家」として、伝統工芸からアウトドア料理まで幅広くいいものと、そのづくり手たちを紹介する。著書に全国の鍛冶屋を訪ねた『打刃物職人』（ワールドフォトプレス）、刀匠の技と心に迫った『日本刀 神が宿る武器』（共著、日経B P）、全国の終着駅を訪ねた旅行記『終着駅の日は暮れて』（天夢人〈山と溪谷社発売〉）など。監修に『ブキャナン＝スミスの斧本 焚き火、キャンプ、薪ストーブ好き必携!』（グラフィック社）。編集に『千代鶴是秀 日本の手道具文化を体現する鍛冶の作品と生涯』（ワールドフォトプレス）、『相克のアイデアマツダよ、これからどこへ行く』（日経B P）、『抗議するアートグラフィックス』『南米野外料理 アサード』（以上、グラフィック社）など多数。

貴店印・帳合

ご注文数

“親をあずけたい”介護施設

服部 夏生/著

定価：1,430円(10%税込)

ISBN978-4-909417-80-0

発売日：2023年6月21日

四六判並製/168頁

PHPエディターズ・グループ

ご担当

様

冊

発行

PHPエディターズ・グループ

〒135-0061

東京都江東区豊洲5-6-52 11階

☎ 03-6204-2931

FAX 03-6204-2932

ご注文はJRCへ▶▶▶ FAX 03-3294-2177

※返品条件付き注文扱い
すべての取次への出荷が可能です。